

## 授業概要

人間文化学科に所属する7人の教員が「自然、人間、超自然」をテーマに、それぞれの専門分野に即して講義し、問題提起する。歴史、文学、言語、文化の多様な領域を横断するバラエティに富み、かつ知的好奇心を刺激する内容の講義が展開される。学生も、教員に劣らぬ知的好奇心と熱意をもって受講してもらいたい。

## 授業計画

第1回	西山 ガイダンス
第2回	熊田(1) 「人間のイメージ」—語源の背後にある思想とともに
第3回	熊田(2) natureの語源 —「生み出すもの」から「自然」へ
第4回	掛野(1) 「自然」を描く—日本近代文学の場合
第5回	掛野(2) 「超自然」を描く—日本近代文学の場合
第6回	湯浅(1) 陰陽五行説によって森羅万象を読み解く
第7回	湯浅(2) 天体の運行を人間世界に映し出す
第8回	胡(1) 隠者の生きる自然 — 原始の山林から人工の山水へ
第9回	胡(2) 自然を超えようとする人間の想像と能力 — 仙人=不老長寿の挑戦と挫折
第10回	中村(1) 和歌に見る<自然美>の定型化
第11回	中村(2) 現実を超える<自然美>の言語世界
第12回	伊藤(1) カリブ海の自然の中で — プランテーションにおける奴隷の人口問題について
第13回	伊藤(2) 砂糖と疫病 — 熱帯サバナの気候風土が奴隷複合体にもたらしたもの
第14回	西山(1) 怪物退治のもの語/騙り — 『白鯨』から『ゴジラ』へ
第15回	西山(2) 映画の中の放射能の表象 — 原発という超自然
第16回	レポート試験

## 到達目標

- ① さまざまな学問分野について興味関心を持ち、自分なりに考えることができるようになる。
- ② 提起されるテーマについて自ら考え、調べ、発信できるようになる。
- ③ 自ら問題提起ができるようになる。

## 履修上の注意

教室に座って板書を書き写すだけの時間にしてはならない。授業では特定のテーマについて答えを教えるのではなく、問題提起を行うことになる。それについて自ら資料を集め、思考し、結論を出し、それを文章化する作業を行うことが必要である。各講義は2回だけなので、欠席しないようにすること。

## 予習復習

シラバスに記載されたキーワードについて調べておくことが予習になる。また、各担当回終了ごとに課題が出されるのでそれに答えることが復習となる。

## 評価方法

7人の担当者がそれぞれの担当回でレポート及びコメントをもとに評価し、それを合計して全体評価とする。(100%)

## テキスト

統一テキストは使用しない。教材は各担当者が授業内で配布する。